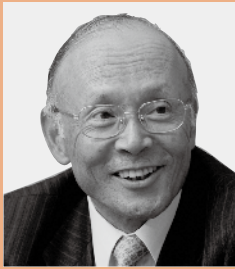




私の思い出写真館

スーパーハイビジョンとオリンピック



宇治 則孝
日本電信電話
顧問

スーパーハイビジョンは、次世代のテレビ映像として、NHKが従来から技術開発を進めてきており、現在のハイビジョンの16倍という超高精細な映像で8Kとも呼ばれている。小生もNHKの研究所で、初めてこの映像の、ねぶた祭を見たときには、その臨場感に大変感動したのを記憶している。音響効果と合わせ、3次元映像よりリアルに感じるくらいである。

2年半近く前、「今度のロンドン・オリンピックのときに、ぜひ、スーパーハイビジョンの映像を日本に送り、皆さんに見てもらいたい」と、当時NHKの技術トップで20年来の友人である永井さんから持ち掛けられ、また専用線ではなく、安価なIPネットワークでの実現ということで、NTTの副社長としても期待に応えるべく、研究所を中心に、大変汗をかいた。

その映像を遠距離でリアルタイムに中継を行



2012年ロンドン・オリンピックのレセプションでNHK松本会長と



2011年報道発表にて、NHK前専務理事・技師長 永井さんとスーパーハイビジョン映像を背景に

うためには、とてつもなく大容量の情報を高速かつ確実に伝送する必要があったが、そのめどが付いたことを、2011年2月NTT武蔵野研究開発センタで、NHKと共同記者会見を行った。

「うまくいったら、ロンドンで祝杯を挙げましょう」という約束付きでプロジェクトを開始していたのである。

いよいよ今年の夏に開催されたロンドン・オリンピックにおいて、NHK、BBC、NTTが協力し、世界で初めてスーパーハイビジョンによるグローバルなライブ伝送が成功した。今回、日本では、渋谷、秋葉原、福島の3カ所の会場で、大型スクリーンで楽しむパブリックビューイングを実現した。実際に多くの来場者に迫力あるオリンピック映像をご覧いただき、大好評を得たと聞いている。

おかげさまで、小生もロンドンに駆け付け、7月31日には、記念のイベントにも参加し、おいしいお酒で、苦労話を語り合った。

オリンピックのたびにいろいろな技術が進むとはよくいわれるところであるが、今後も、放送と通信の連携により、先進的で付加価値の高いサービスを提供していきたいものである。

次回ブラジルで新技術による祝杯を期待するとともに、その次の開催地の選定(東京?)にも、大いに関心を持っている。